

543 シスプラチン投与肺癌患者の腎障害に対する ウリナスタチン（ミラクリッド®）の作用について

川崎医科大学呼吸器内科

○梅木茂宣，矢木 晋，築山邦規，原 宏紀，沖本二郎，
二木芳人，川根博司，副島林造

【目的】シスプラチン投与時の腎障害は日常の臨床でしばしば経験されることである。そこで，我々は蛋白分解酵素阻害剤ウリナスタチン（ミラクリッド®）のシスプラチン腎毒性軽減作用について検討した。

【対象と方法】対象は昭和63年7月より10月までに当科に新規入院した病理組織学的に確診された肺非小細胞癌患者（TNM分類，Stage III + IV）である。腎機能障害の因子として，24時間尿 N-アセチル-β-D-グルコサミニダーゼ（NAG），β₂-ミクログロブリン（u-BMG），クレアチニン・クリアランス（Ccr），BUN，血清クレアチニン（Crn），血清尿酸（UrA）および血清BMG（s-BMG）を用い，シスプラチン投与前後でこれらの因子を測定しウリナスタチン未使用・使用群間で比較検討した。

【結果・考察】ウリナスタチン未使用群では，シスプラチン投与後3日目におけるNAGおよびu-BMGが投与前値に比較して3倍以上に上昇し，Ccrが有意に低下し，さらに，BUN，UrAおよびs-BMGが有意に上昇した。しかし，ウリナスタチン使用群ではこれらの因子の変動が著明に抑制された。これらのことより，ウリナスタチン（ミラクリッド®）は，シスプラチンによる腎近位尿管の障害と腎血流量の減少に対して著明な軽減作用を示すことが示唆された。

545 CDDPを含む肺癌化学療法の副作用対策としてのMPA（Medroxyprogesterone Acetate）投与の有用性に関する検討

浜松医科大学第一外科

○鈴木一也，野木村 宏，堀口倫博，杉村久雄，
伴野隆久，原田幸雄

【目的】乳癌のホルモン治療剤であるMPA（Medroxyprogesterone Acetate）は，抗腫瘍作用とともに，食欲増進，体重増加，血小板減少抑制，などの作用が知られている。今回，我々は，CDDPを含む化学療法施行時の副作用対策として，MPAの投与を行い，その有用性を検討した。

【対象及び方法】原発性肺癌32例に対し，CDDP 70~80 mg/m²，VDS 2mg/m²，ADM 30mg/m²，の投与を行い（Methylprednisolone，Methoclopramide併用），うち11例にMPA 600mg/dayを化療2日前より10日間経口投与し，21例の非投与群と比較検討した。

【結果】嘔吐回数は，無，1~4回，5回以上が，それぞれMPA投与群で45.5%，54.5%，0%，非投与群で，19%，33.3%，47.6%，嘔気持続期間は，無，1~3日，4日以上が，それぞれMPA投与群で，18.2%，63.6%，18.2%，非投与群で，4.8%，42.9%，52.4%であり，有意にMPA投与群で，副作用が少なかった。白血球減少，血小板減少は，MPA投与群で軽い傾向にあり，肝機能，腎機能障害には両群差が無く，MPA投与で心配される血栓，塞栓症の発生は無かった。

【結論】化学療法の副作用対策としてMPA投与は，有用であると考えられ，今後さらに症例を重ねて検討する。

544 CDDPの腎毒性に対するPGE₁投与の試み

大阪通信病院第2内科

○小牟田 清，前田 恵治，渋谷知香子，山本 勇
元村 卓嗣，五十嵐 敢

【目的】切除不能肺癌患者に対しCDDPを中心とする多剤併用化学療法を行なうことにより治療効果は，明らかに向上している。しかし，化学療法に伴う副作用対策は重要で特にCDDPの腎毒性は化学療法のDose limiting factorとなっている。今回我々は，切除不能肺癌患者に対しCDDPを中心とする化学療法を施行後，腎機能障害を来した症例に対しPGE₁を投与し腎機能の改善を認めうるか否かを検討した。

【対象と方法】1987年4月以後，当院に入院した切除不能肺癌患者のうちCDDPを中心とした化学療法を施行後，腎機能障害を来し，大量の補液および利尿剤投与により改善を示さなかった6症例を対象とした。PGE₁は，120μgを1日2回に分けて点滴投与した。

【結果】6症例中5例において明らかに腎機能の改善を認めた。残り1例においても悪化は認めなかった。以上より，PGE₁は，CDDPの腎毒性に対し有用と思われた。

546 肺癌化学療法下の成分栄養剤経口投与の検討

奈良県立医科大学第二内科

○江川信一，米田尚弘，塚口勝彦，吉川雅則，
鴻池義純，福岡和也，成田亘啓

【目的】我々は前回，肺癌治療による栄養障害・細胞性免疫能の低下を示しさらにその栄養障害が予後に影響することを報告した。今回，肺癌化学療法による栄養障害の対策として成分栄養剤（elemental diet，以下ED）のrandomized studyを行ったので報告する。

【対象・方法】進行期非小細胞肺癌（PS 0-2）を対象としED投与群（普通食 2000 Kcal+ED），対照群（普通食 2000 Kcal）の比較試験を行った。両群ともにCV療法を施行し，ED投与群には化学療法開始1週間前よりEDを300-600 Kcal/day経口投与し，以後継続投与とした。そして両群ともに化学療法開始1週間前と6週間後の2点において栄養評価を行った。現在までの評価可能例は両群とも10例ずつであった。

【成績】治療の前後で対照群では%標準体重の有意の低下，%上腕三頭筋部皮膚厚，%上腕筋筋の低下傾向が認められ，内臓蛋白も有意に低下した。これに対しED投与群では身体計測値の低下がなく，内臓蛋白ではalbuminは維持され，transferrinはむしろ有意に増加した。またED投与群では対照群に比べて，化学療法によるPS低下例が少なく化学療法の奏効率も高い傾向を示した。

【結論】ED経口投与が肺癌化学療法による栄養障害を防止し，支持療法としての有用性が示唆された。